

早いもので 1 学期も残すところ 3 週間余りとなった。なかなか夏らしい天気が続かないが、道内の小学校においては修学旅行やプール学習の時期を迎え、大変お忙しいのではないかと思う。そのような中、全道より副会長・理事の皆様にご参集いただき感謝する。

札幌では、6 月 27 日に南区の小学校においてプラムの種の誤飲事故があり、7 月 1 日全市の校長が集められ経過が報告された。給食に限らず、学校においては何が起こるか分からないだけに、日頃から危機管理に対する教職員の意識高揚と体制の見直し・整備を怠らないことが再確認された。今回のことを対岸の灯とせず、自校においても起こりうる可能性があると思え、校内の危機管理対策をもう一度見直すことが大切であると考えます。

さて、理事研修会は、総会翌日の 5 月 14 日以来である。ここまで、道教委への要望書提出 (5/15)、全連小総会 (5/24)、全道事務局長研修会 (5/28)、全道小中合同運営委員研修会 (6/4)、全道会長研修会 (6/21) 等、順調に進んで本日に至っている。副会長・理事の皆様のご理解とお力のおかげであり、改めて感謝を申し上げる。

ここで、全連小関係から 2 点、道小の活動に関わって 6 点お話しする。

最初に、全連小関係から 2 点報告する。

一点目。6 月 14 日第 3 回常任理事会行われた。

冒頭、堀竹会長より、自民党教育再生実行本部が、平成 26 年度予算に『教育再生特別枠』二兆五千億円程度を首相に要望した件と学校給食における食物アレルギー対応に関する調査研究協力者会議が実施するアンケート調査について報告があった。アンケート調査は、児童生徒の食物アレルギーの実態や食物アレルギーに対応した学校給食の体制や提供方法等の取組状況について、全国の公立小学校、中学校において抽出調査するものである。8 月に実施し、9 月～12 月の期間において、調査集計される予定である。

二点目。平成 26 年度全連小予算要望の検討が進んでいる。7 月 8 日第 4 回常任理事会決定後、文科省・総務省・財務省に対し要請活動を行う予定である。

平成 26 年度全連小予算要望は、

- ① 財政教育支出の GDP 比を OECD 諸国平均の 5% まで引き上げや、人材確保法の堅持及び教職調整額の増額、地方交付税措置されている教育費財源を他の財源としない指導強化など 5 項目に関わる教育費の増額措置
- ② 震災復興に関わって、教職員の加配継続及びスクールカウンセラーの配置など児童等に対するサポート体制の整備、就学援助の急増に対する支援の確保など 5 項目の震災復興のための人的配置の充実及び施設・設備・教材等の迅速な整備
- ③ 義務教育標準法の改正による教職員定数の改善、英語・理科などの専科教諭、司書教諭、特別支援教育コーディネーターの正規教員加配など 8 項にわたる教員定数改善や人的措置、諸条件の整備

など、9 分野 46 項目になる予定である。

道小も、全連小と連携し要請活動に参加するとともに、来年度に向けた文教施策・予算要望や学力向上に関する要望書に生かしていく予定である。

道小の活動より6点報告する。

一点目は、教育団体に関わるサービスの取り扱いについてである。教職員給与の適正執行に関わる調査と並行して、これまで懸案であった服務上の課題、例えば『週休日の振替期間の問題』等について粘り強く要望してきたが、一定程度改善の方向を得ることができた。

最後に残されたのが、教育団体特に校長会などに関わるサービスの取り扱いについてである。すでに、第一回理事研修会・全道事務局長研修会において道教委から行政説明を行ってもらっているが、6月13日道小・道中で改めて道教委教職員課と協議を行い、道小としては、

- ① 市町村教委の指示によらない業務
- ② 道教委・市町村教委との情報交換への出席
- ③ PTA業務

の3点について検討をお願いしている。6月末にも最終的な案が道教委から情報提供されるはずであったが、道教委内部での調整が遅れているようである。道教委から最終的な案の提示がありしだい、道小より情報提供させていただく。

二点目は、8月9日の文教施策懇談・各課懇談会について

5月15日、道小、道中・道公教の3者で吉田教育次長に「要望書」を提出した。「要望書」に対する道教委からの『回答書』は先日届き、本日皆様のお手元に用意した。現在、道中と共同で8月9日に開催する文教施策懇談会・各課懇談会の準備を進めている。懇談会は、懇談会は道庁赤レンガ庁舎で行われるが、副会長及び理事の皆様には提言や質問・挨拶等をお願いすることになる。どうぞよろしくお願いしたい。

校長会の大きな役割の一つは、「学校の声」を行政に伝え、学校や校長会が抱える課題の改善に向け要望活動を行っていくことである。学校現場における具体的な事例や数値等のデータを示しながら、道教委との話し合いを深めたいものである。その上で、解決の方向をしっかりと協議し合うことが大切である。また、そういう姿勢こそが文教施策懇談会・各課懇談会で大きな成果を生み出す源になると考えるし、校長会の教育にかける真摯な姿を内外に示す原点でもあると信じている。

当日は「学力向上と教育環境の整備」「生徒指導上の問題と解決のための方策」「教頭を取り巻く現状と課題解決のための方策」等が話題となる。

各課懇談会においては、さらに、「教育課程の編成・実施・評価・改善」「教職員の資質向上と研修体制、広域人事」「子どもと向き合う時間を確保するための具体策」「学校危機管理の在り方」「特別な配慮を要する児童・生徒への対応」「学びの支援のための条件整備」等についても、話題とする。

最新の情勢も踏まえながら話し合いを展開し、充実した文教施策懇談会、各課懇談会にしたいと考えている。よろしくお願いします。

三点目は、いじめの防止条例検討委員会・休罰防止策連絡会議・時間外勤務縮減検討会議における審議についてである。道小からこの三つの会議に委員を派遣している。特に、いじめ・体罰防止においては、どちらも学校現場であってはならないことであり、その未然防止や根絶に向け、毅然とした態度で臨むことが我々校長に求められている。これらの問題にかかわって一人一人の校長、そして、校長会に課せられた責任は重いと言わざるを得ない。

各学校においては、すでにいじめの未然防止や早期発見あるいは体罰の根絶に向けた取組を行っていると思うが、今一度、いじめ・不登校や体罰など、子どもの「命と心の安全」に対する問題を

学校としてしっかり捉え、それと向き合う校内組織体制の整備をお願いしたい。

同時に、一人一人の教員が、子どもの発する声なき声や心のサインを見落とさず敏感に感知する力や、子どもたちの悩みを親身になって受け止める力を高めることも重要であり、教職員の意識を高める研修の充実を図っていただきたい。

さて、いじめの防止や体罰の根絶のためには、教職員が子どもたちと真に向き合う体制の整備が急務である。したがって少人数学級の実現など教育条件の整備を道小として強く要望していきたい。

また、道教委は各市町村教委を通じていじめや体罰の実態を把握するため調査を行っているが、いじめの実態調査だけでも年数回行われており、それに加えて保護者を巻き込んだ形の調査をさらに実施することは、

- ① 学校に対する保護者の不信感をつのる
- ② 調査に時間を取られ、教職員が子どもに向き合う時間を圧迫する
- ③ 調査の処理に追われ、教材研究など授業改善に向けるべき時間が削られる

等の弊害を招くことから、さらなる調査の実施については、慎重に対応するよう要望していきたい。

四点目は、学力向上に関わる道小のアンケート調査についてである

昨年度より3年間の計画で学力向上に関わるアンケートを全道1/3の学校において実施している。本日の理事研修会において内容を決定し、7月中には発出したいと考えている。地区校長会の皆様には、調査対象校の選出などにおいてご苦勞をおかけするが、ご理解を賜りたい。

今年度の調査では、学力向上に向けて取り組んでいる各学校の困り感を明らかにし、道教委への提言や要望活動に生かすため、昨年度の調査内容を大きく変更した。学期末のお忙しい時期にお願いすることになるが、ご協力をお願いする。

五点目は、道小教育研究渡島・北斗大会についてである。

本日午後から第2回分科会運営者研修会が開催される。新たな大会主題のもと「参観型から参加型、そして参画型の分科会へ」を具現化する大会になるよう、分科会討議と発表との関連を道小研修部が中心となって模索しているところである。ぜひ、ご協力をお願いする。また、副会長・理事の皆さんには、大会成功に向けて全力を傾けている渡島小中学校長会のご努力にこたえるためにも、校長としての品格をもって開会式から閉会式までの完全参加を地区校長会の研修等の場を通じてあらためて呼び掛けてもらいたい。

六点目は、平成24年度補正予算及び平成25年度予算にかかわる理科教育設備整備費など補助金の追加募集についてである。平成24年度の追加予算及び平成25年度予算の理科教育設備整備費130億円について文科から追加募集があり、資料にあるように道教委から文書が発出されている。

理科教育推進に必要な実験器具・備品をこの機会に整備するためには、学校現場の困り感を市町村教委に伝え、首長部局との折衝にもっていく必要がある。7月末道教委への提出締め切りとなっているので、局の締め切りはもう少し早いと考えられる。

学期末のあわただしい状況ではあるが最低要求額50万円以下でも採択された例があるので、是非声をあげてもらいたい。全国で130億の予算がついているが、かなりの額が埋まっていないようである。あたる可能性は高いので、ぜひ市町村教委と検討してもらいたい。

この一年、道小としては昨年同様、道中との連携をより緊密にしながら、道教委に対しても言うべきことはしっかり言うという姿勢をもって、理解と協調に基づく信頼関係・適度な緊張関係を維持・継続していきたいと考えている。そのためにも、「志高く、信頼と協働に基づき共に進む校長会」を目指し、活動の一層の充実を図っていきたいと考えている。よろしくお願いしたい。

なお、日本教育会全国大会の案内がお手元にあるかどうかと思う。日本教育会は9月の28日（曜日）、札幌教育文化会館において、全国大会を開催する。道小幹事も実行委員として参加している。この後、日本教育会の北海道支部より大会参加者の取りまとめ等の依頼が地区の代表者のところへ届くことになると思うので、ご協力をお願いしたい。